

「心(外界)と身体(内界)との関係性」を診る

連載
2

―パブロフの条件反射―

心身条件反射療法協会

生命をもつ生物体には、それぞれの外界(環境)とのバランスを保つために、それぞれの種族に適した自動制御装置が備え付けられている。その最も重要な役割を担うシステムが神経系であり、生命維持、健康のために重要な役割を担っている。生物体は無意識下でこの神経系の自動調整を行っており、その中心的な役割が「反射」である。この反射という制御機能があるがゆえに、生物体は様々な外界と適応し、順応させることを可能にしている。

パブロフは、「反射とは、外界のある現象とそれに対応する生物体の一定の反応との

間の、神経系による一定の結合の機制である。」と述べている。神経系を制御する反射には、大きく分けて生理的反射と心理的反射による制御に分類される。心理的反射による制御は「条件反射」であり、

生理的反射による制御は「無条件反射」である。条件反射は、個々の生物体の生涯において、多かれ少なかれ一時的に獲得される。一方、無条件反射は生まれつきのものであり、その種属が生理学的に備えもつものの一部である。動物は、無条件反射系と条件反射系の二つの高次神経系しか

もたないが、人間には二つの条件反射系、すなわち、感覚



信号系と言語信号系がある。

有名なパブロフの犬の実験において、ベルの音と餌を同時に繰り返し与えることで条件づけられて、ベルの音だけで唾液が分泌されるというこ

とはよく知られている。その一方で、あまり注目さ

れていない大切な実験がある。それは一度条件づけられた反射が、さらなる条件づけの操作によって消失させることもできるし、再び同じ手順を繰り返して条件づけすれば、条件反射作用を回復させることもできるというのである。このパブロフが証明した条件反射の「消去」の実験は、様々な症状や病気を改善させる上で重要な意義がある。

PCRT(心身条件反射療法)では、この条件反射の消去作用をさらに進化させた形で施術に應用しており、その切り替えは瞬時であり、難治性の慢性症状やアレルギー症状など、幅広い症状改善に應用できる。PCRTが幅広い症状に効果があるのは脳のパターン(神経回路)に注目しているからである。

(次号に続く)